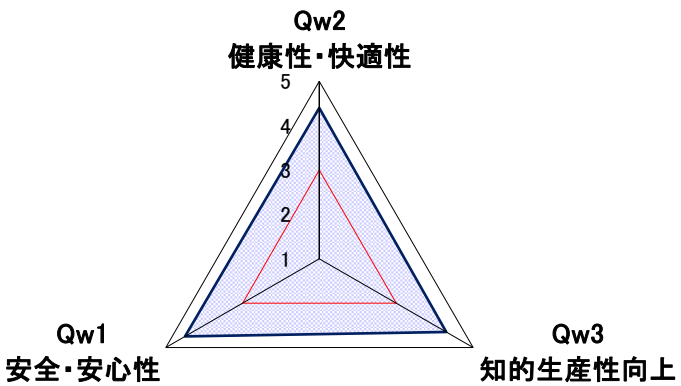


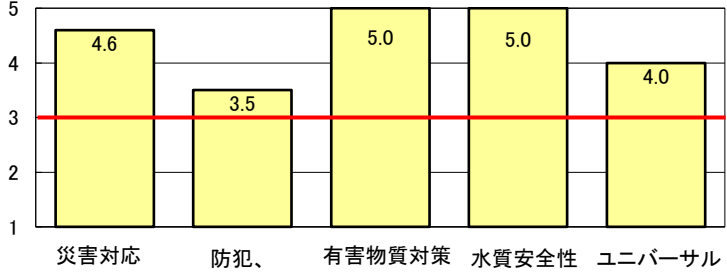
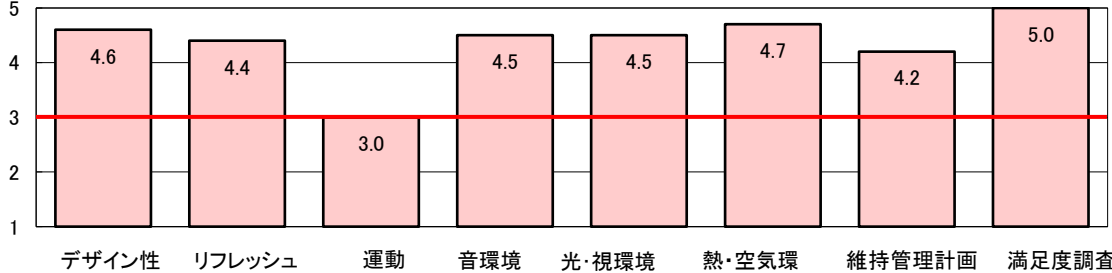
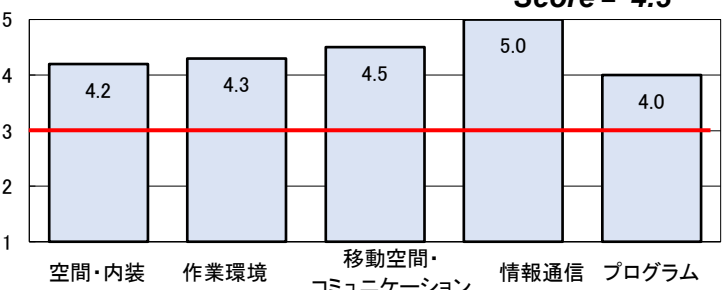
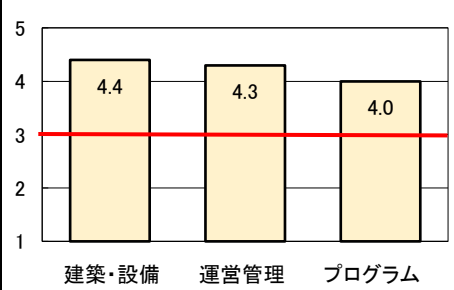
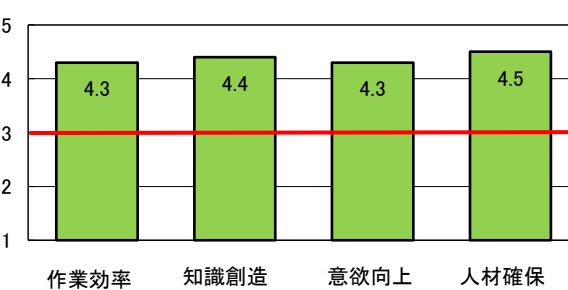
CASBEE®-ウェルネスオフィス

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-ウェルネスオフィス2025年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-WO_2025v1.0

1-1 建物概要			1-2 評価パターン	
建物名称	嬉野市新庁舎	階数	地上4F、地下0F	評価対象 パターン3
建設地	佐賀県嬉野市	構造	S造	
用途地域	第二種住居地域、法22条区域	平均居住人員	310 人	1-3 外観
地域区分	6地域	年間使用時間	2,421 時間/年(想定値)	
建物用途	庁舎	評価の段階	設計段階(実施設計・施工)評価	
竣工年	2028年3月 予定	評価の実施日	2026年6月8日	
敷地面積	8,294 m ²	作成者	田苗 稔	
建築面積	1,846 m ²	確認日	2026年6月8日	
延床面積	5,776 m ²	確認者	篠原正樹	

2-1 総合評価	2-2 大項目の評価(レーダーチャート)
Rank: S 85.3 /100  S ランク;★★★★★ > 75 A ランク;★★★★☆ ≥ 65 B+ランク;★★★★ ≥ 50 B-ランク;★★★ ≥ 40 C ランク;★★ < 40 	

2-3 中項目の評価(バーチャート)		
基本性能・運営管理・プログラム		
Qw1 安全・安心性 Score= 4.5 	Qw2 健康性・快適性 Score= 4.4 	
Qw3 知的生産性向上 Score = 4.3 	参考 業務範囲別評価 	知的生産性の視点に基づいた評価 

3 設計上の配慮事項		
総合 「すべてのひと・自然にやさしい 安全・安心なうれし舎」を基本理念とし、①市民の利便性が高い庁舎、②防災機能が充実した安全安心な庁舎、③環境にもひとにもやさしい庁舎、④機能的・効率的で、経済的に優れた庁舎、という方針を具現化する計画としている。また、職員の働き方改善を促進するオフィス計画に取り組んでいる。		その他
Qw1 安全・安心性 ・法令水準以上の非常用発電機の採用等、災害時の電源確保に配慮している。 ・建築基準法に定められた耐震性の50%増の耐震性を確保している。	Qw2 健康性・快適性 ・ゆとりある天井高を確保し、開放的な執務スペースを計画している。 ・天井放射パネル冷暖房を採用し、均質な温熱環境となるよう配慮している。	Qw3 知的生産性向上 ・OAフロアの設置、OA機器用のコンセント容量50VA/m²以上を確保し、利便性の高いオフィスを計画している。 ・知的生産性を高める働き方に即したレイアウト計画とし、作業環境に配慮している。

CASBEE-ウェルネスオフィス2025年版
埼玉県新庁舎

バージョン

CASBEE-WO_2025v1.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート				
配慮項目			環境配慮の概要記入欄	評価点
総合評価				4.4
Qw1 安全・安心性				4.5
1 災害対応				4.6
1.1 耐震性	1.1.1 躯体の耐震性能	建築基準法に定められた耐震性の50%増の耐震性の確保		5.0
	1.1.2 免振・制振・制震性能			3.0
	1.1.3 設備の信頼性	法令水準以上の非常用発電機、UPSの設置		5.0
1.2 自然災害リスク対策			リスクの合計数が0	5.0
1.3 BCPの有無			BCPの策定、計画体制の確立、被災状況を把握するシステムの導入	5.0
1.4 消防訓練の実施			消防訓練の実施、参加人数増加の取組み	5.0
2 防犯、非常時対応				3.5
2.1 セキュリティ設備			監視カメラの設置、入退室管理システムの設置等	4.0
2.2 AEDの設置				3.0
3 有害物質対策				5.0
3.1 化学汚染物質			ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建築材料を採用	5.0
3.2 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない建材種別を4種別採用	5.0
3.3 有害物質の 既存不適格対応	3.3.1 アスベスト、PCB対応			-
	3.3.2 土壌汚染等対応			-
4 水質安全性				5.0
4.1 水質安全性			水質劣化防止対策、破損や腐食に強い材質の採用	5.0
5 ユニバーサルデザイン				4.0
5.1 バリアフリー法への対応			バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす	4.0
Qw2 健康性・快適性				4.4
1 デザイン性				4.6
1.1 外観デザイン			まちなみに調和した外観デザイン、植栽による良好な景観形成等	5.0
	1.2 内装計画	1.2.1 専有部の内装計画	機能促進に配慮した内装計画、照明計画との一体化等	5.0
		1.2.2 共用部の内装計画	ウェルネス性や生産性向上に配慮した内装計画、リフレッシュ空間の整備	4.0
2 リフレッシュ				4.4
2.1 オフィスからの眺望			天井高は2.7m以上、屋外の情報を得られる窓を設置	4.0
2.2 室内の植栽・自然とのつながり				3.0
2.3 室外(敷地内)の植栽・自然とのつながり			種の多様性、地域の植生に配慮等	5.0
2.4 トイレの充足性・機能性			余裕を持った器具数の設置、標準以上の配慮	5.0
2.6 リフレッシュスペース			複数タイプの快適なりフレッシュスペース、自動販売機の設置	5.0
3 運動				3.0
3.1 運動促進・支援機能				3.0
3.2 階段の位置・アクセス表示				3.0
4 音環境				4.5
4.1 室内騒音レベル			40<騒音レベル目標値[dB(A)]≤45	4.0
4.2 吸音			床に吸音材を使用、集中ブースの提供	5.0
5 光・視環境				4.5
5.1 自然光の導入			開口率≥10%、サーカディアン照明を採用	4.0
5.2 グレア対策	5.2.1 開口部のグレア対策	ブラインドと庇を組み合わせるグレアを制御、フリーアドレス		5.0
	5.2.2 照明器具のグレア対策	G1分類の器具を採用		5.0
5.3 照度			全般照明方式、照度:500lx以上1000lx未満	4.0
6 熱・空気環境				4.7
6.1 空調方式および個別制御性			天井放射空調、VAV方式の採用	5.0
6.2 室温制御	6.2.1 室温	冬期22℃、夏期26℃		4.0
	6.2.2 外皮性能	断熱性能の高い建材の採用		5.0
6.3 湿度制御			加湿・除湿機能を有す	4.0
6.4 換気性能	6.4.1 換気量	換気量:30m3/h・人、床吹出方式を採用し、置換換気が可能な計画		5.0
	6.4.2 自然換気性能	中央監視による有効判断、ワーカー(職員)へ情報提供が可能な計画		5.0
6.5 分煙対応、禁煙対応			敷地内完全禁煙	5.0

7 維持管理計画			4.2
7.1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装仕上材の採用、壁掛け式便器の採用等	4.0
7.2 維持管理用機能の確保			3.0
7.3 維持保全計画		維持保全計画の策定、予防保全・事後保全を実施予定	5.0
7.4 維持管理の状況	7.4.1 定期調査・検査報告書		-
	7.4.2 維持管理レベル		-
7.5 中長期保全計画の有無と実行性		中長期保全計画の策定、実施体制の整備	5.0
8 満足度調査			5.0
8.1 満足度調査の定期的実施等		アンケート調査の定期的な実施、改善策に活用する計画	5.0
Qw3 知的生産性向上			4.3
1 空間・内装			4.2
1.1 レイアウトの柔軟性	1.1.1 空間の形状・自由さ	空間のプランニングの自由度が極めて高い	5.0
	1.1.2 荷重のゆとり	積載荷重:2900N/㎡以上、HDZあり	4.0
	1.1.3 設備機器の区画別運用の可変性	空調設備:細かい区画(1スパン単位)に分けて運用可能	4.0
1.2 広さ		一人当たりの執務スペースが6㎡以上、フリーアドレス	5.0
1.3 給排水設備の設置自由度			3.0
2 作業環境			4.3
2.1 知的生産性を高めるワークプレイス		知的生産性を高める働き方に即したレイアウト計画・整備を実施	5.0
2.2 オフィス什器の機能性・選択性		ワーカーが使用する什器を自由に選択できる計画	5.0
2.3 OA機器等の充実度			3.0
3 移動空間・コミュニケーション			4.5
3.1 移動空間	3.1.1 動線における出会いの場の創出	会話を誘発するような動線上の工夫	5.0
	3.1.2 EV利用の快適性	安全・耐震基準への対応、行先階キャンセル機能等	4.0
3.2 コミュニケーション	3.2.1 打ち合わせスペース	アクセス性の高い打ち合わせスペース、内容に応じた空間の選択が可能	5.0
	3.2.2 食事のための空間	快適な食事や軽食が取れるスペースの計画	4.0
4 情報通信			5.0
4.1 高度情報通信インフラ		OAフロア設置、OAコンセント容量:50VA/㎡以上	5.0
5 プログラム			4.0
5.1 メンタルヘルス対策、医療サービス		健康診断、ストレスチェック、独自のメンタルヘルス対策の実施	5.0
5.2 情報共有インフラ		情報共有インフラの整備	4.0
5.3 健康維持・増進プログラム			3.0

感染対策性能評価	レベル	重要度	重み	得点	全体
総合評価					4.4
① 飛沫感染対策として有効に働く項目			0.40	4.6	—
Qw3 - 1.1.1 空間の形状・自由さ	5.0		0.20		
Qw3 - 1.2 広さ	5.0	◎	0.50		
Qw3 - 2.3 OA機器等の充実度	3.0		0.10		
Qw3 - 4.1 高度情報通信インフラ	5.0		0.10		
Qw3 - 5.3 健康維持・増進プログラム	3.0	◎	0.10		
② 空気感染対策として有効に働く項目			0.40	4.6	—
Qw2 - 6.1 空調方式および個別制御性	5.0		0.10		
Qw2 - 6.4.1 換気量	5.0	◎	0.25		
Qw2 - 6.4.2 自然換気性能	5.0		0.10		
Qw2 - 7.2 維持管理用機能の確保	3.0		0.05		
Qw2 - 7.3 維持保全計画	5.0	◎	0.15		
Qw2 - 7.4.1 定期調査・検査報告書	-		0.10		
Qw2 - 7.4.2 維持管理レベル	-	◎	0.15		
Qw3 - 5.3 健康維持・増進プログラム	3.0	◎	0.10		
③ その他、感染症流行時に有効に働く項目			0.20	3.7	—
Qw3 - 1.1.3 設備機器の区画別運用の可変性	4.0		0.50		
Qw3 - 5.2 情報共有インフラ	4.0		0.25		
Qw3 - 5.3 健康維持・増進プログラム	3.0	◎	0.25		